

iLO ファームウェアアップデート補足

本書は、Starter Pack により iLO ファームウェアをアップデートするときの注意事項などについて説明しています。アップデート操作を誤るとサーバーが起動しなくなる等の障害が起きることがありますので、本説明文を最後までよく読み誤操作のないようアップデートしてください。また、データ書き換え中に予期せぬアクシデント（停電、雷、遮断、ノイズ等）によりサーバーが誤動作したり電源が切断されたりしますと、最悪の場合、機器が損傷し正常動作しなくなります。このような場合お客様のご負担で修理を必要とすることがありますので十分ご注意ください。

- ファームウェアアップデート中にブラウザーのリロードボタンまたは F5 キーを押さないでください。誤ってそれらの操作をしてアップデートが完了しない状態になった場合は、iLO のリセットを行ってください。
- サーバーに TPM または TM がインストールされている場合、システム ROM(BIOS)または iLO ファームウェアをアップデートする前に、TPM または TM に関する情報を格納するソフトウェアを一時停止またはバックアップしてください。例えば、ドライブ暗号化ソフトウェアを使用している場合は、ファームウェアのアップデートを開始する前に停止してください。ソフトウェアの停止をせずにシステム ROM(BIOS)または iLO ファームウェアのアップデートを行った場合、データへアクセスできなくなる可能性があります。TPM または TM を使用するソフトウェアを停止していない状態では、システム ROM(BIOS)または iLO ファームウェアのアップデートを開始しないようにしてください。
- iLO ライセンスキーの紛失や HW 障害などによる設定値消失に備え、iLO ファームウェアアップデート実施後にバックアップとリストア機能を使用して iLO 設定のバックアップを行うことを推奨します。
- 本ファームウェアのアップデートとともに以下の各ファームウェアとソフトウェアをアップデートしてください。
 - a) システム ROM(BIOS): Starter Pack の Standard Program Package を適用
 - b) Agentless Management Service: Starter Pack の Standard Program Package を適用
 - c) ESMPRO/ServerAgentService: Starter Pack のバンドルソフトウェアをインストール
 - d) 装置情報収集ユーティリティ: Starter Pack のバンドルソフトウェアをインストール
 - e) RESTful インターフェイスツール: Starter Pack のバンドルソフトウェアをインストール
 - f) ESMPRO/ServerManager: 別紙「ESMPRO アップデート補足」を参照
 - g) エクスプレス通報サービス(MG)の受信情報設定ファイル: 別紙「ESMPRO アップデート補足」を参照
- IPMI は、その仕様上、パスワードハッシュを取得される脆弱性(CVE-2013-4786)が含まれています。対処方法は、iLO7 ユーザーズガイドを参照してください。

- 本 iLO ファームウェアでサポートする HTML5 コンソールは、日本語キーボードの修飾キー(Shift キー、Ctrl キー、Alt キー等)の入力できません。入力できないキーは、OS のスクリーンキーボード機能、もしくは HTML5 コンソールの仮想キーでも使用可能です。
- OS インストール前に本 iLO ファームウェアへのアップデートを行う場合は、OS インストレーションガイドを参照して BIOS/プラットフォーム構成(RBSU)の[Date and Time]-[Time Format]の設定を行ってから本 iLO ファームウェアへのアップデートを実施してください。

本 iLO ファームウェアへのアップデート後、BIOS/プラットフォーム構成(RBSU)の[Date and Time]-[Time Format]の設定に合わせて、[iLO 設定]-[時刻]-[概要]-[タイムゾーン]にタイムゾーンを設定してください。

- ① RBSU の[Time Format]の設定が[Coordinated Universal Time (UTC)]の場合：

→RBSU の[Time Zone]と同じ値に設定してください(UTC は GMT に読み替えてください)。

例) [Time Zone]が"UTC+09:00, Osaka, Sapporo, Tokyo, Soul, Yakutsk"の場合、"Osaka, Sapporo, Tokyo, Soul, Yakutsk (GMT +09:00)"を選択します。

- ② RBSU の[Time Format]の設定が [Local Time]の場合：

→[Local Time]に対応するタイムゾーンを設定してください。

例) ロケールが日本の場合、"Osaka, Sapporo, Tokyo, Soul, Yakutsk (GMT 09:00)"を選択します。

- 本 iLO ファームウェアへ適用後、画面上部-[概要]-[セキュリティ]および[セキュリティ]-[概要]-[全体セキュリティステータス]に◆リスクが表示される場合があります。RBSU や iLO の設定の状態によっては iLO セキュリティのステータスに◆リスクが表示されますので、お客様のセキュアポリシーに応じてセキュリティの対処をお願いします。推奨値等の詳細は、iLO7 ユーザーズガイドを参照してください。
- 本 iLO ファームウェアへ適用後、[ファームウェア]-[ファームウェア設定]-[ダウングレードポリシー]の設定で「ダウングレードを永遠に不許可」へ設定しないでください。本設定へ変更後は、iLO に対して永続的な変更が行われるため、iLO インターフェイスや各種 ユーティリティから本設定の変更を行おうとしても変更することができません。なお、本設定は BMC 構成ユーティリティの[工場出荷時のデフォルトにセット]オプションにより iLO を出荷時のデフォルト設定に設定を行った場合も、設定はリセットされず「ダウングレードを永遠に不許可」を維持します。
- サーバー起動から OS の起動完了までの間(POST 実行中も含みます)は、iLO の再起動を行わないでください。また、システム ユーティリティの操作途中も、iLO の再起動を行わないでください。

該当タイミングで iLO の再起動を行うと、期待しない動作となる場合があります。例えば、システムユーティリティの設定変更途中で iLO の再起動を行うと、直後のシステム再起動処理(Reboot)が正常に動作しない場合や、装置に記録されている Serial Number、Product ID などの設定情報を消失する場合があります。

また、POST 実行中に iLO の再起動を行うと、[情報]-[概要]ページにおける UUID、UUID(論理)が不正な表示になる場合があります。不正な表示となった場合は、本体装置の電源をオフ、オンしてください。

改版履歴

2025/08/13 iLO7 ファームウェア 1.17.00

- iLO Web インターフェイスと iLO RESTful API の SSL 証明書を TLS 証明書へ変更。
- 全てのセキュリティモードにおいて、TLS 接続用の ECDSA P384 鍵をサポート。CSR 生成のためのデフォルト RSA 鍵のサイズを 4096 ビットに拡張。
- iLO Web インターフェイスにおいて、ボリュームの作成と削除をサポート。
- iLO のアイドル接続タイムアウトにおいて、5 分間のアイドルタイムアウトを追加サポート。
- ホストアプリケーションログの AHS ログへの書き込みをサポート。

2025/06/16 iLO7 ファームウェア 1.16.00

- 仮想シリアルポート設定(“ログを表示”)のデフォルト設定値を有効から無効に変更。
- NVMe-MI のファームウェアアップデートをサポート。
- 480GB OS ブート専用 SSD ボード (RAID 1, HS)のサポート。
- 液体冷却漏れ検出時に電源オンおよびファームウェアアップデートを制限する制御をサポート。
- 専用ネットワークポートにおいて、LLDP(リンク層ディスカバリープロトコル)をサポート。
- UBM11 をサポート。

2025/05/28 iLO7 ファームウェア 1.14.00

- ホスト電源イベント事象発生時に、仮想 NIC を再構成するように改善。
- 液冷デバイスにおける漏れ検出機能をサポート。
- iLO Web インターフェイス、iLO RESTful API において、ハードウェアラベルと合致するように OCP スロットのラベル名を変更。
- iLO バージョン表記を xx.yy.zz の形式に変更。
- iLO とホスト OS 間のインバンド通信用インターフェイスをチャンネルインターフェイス (CHIF)から仮想 NIC へ変更。
- iLO 仮想 NIC のため EU Lot9 準拠の NCM モードドライバーをサポート。
- 仮想 NIC、AHS ダウンロード改善のためデュアルロール USB ホストコントローラーのソフトウェアサポート (USB デバイスとホストの自動接続をサポート)。
- カスタマーエクスペリエンス、使いやすさの向上を目的として iLO Web インターフェイスを刷新。

- SSH CLI において、UID、OneTimeBoot、NMI、VSP、VSP LOG、iLO リセット、iLO 時間、iLO バージョン、画面クリア、Windows カーネルデバッグ有効化コマンド(windbg_enable)、およびヘルプ コマンドをサポート。
- デフォルトのセキュリティモードとしてセキュア標準モード(従来機の高セキュリティに相当)をサポート。
- iLO Web インターフェイスにおいて、温度センサー用の 2D グラフ(ヒートマップ)をサポート。
- iLO でローカル時間を設定するリアルタイムクロック(RTC)をサポート。
- パドルライザーのサポート。
- iLO RESTful API と iLO Web インターフェイスにおいて、「スムーズな冷却」機能をサポート。
- iLO Web インターフェイスにおいて、ログインセキュリティバナー使用承諾の確認ボタンを追加。
- IPMI over LAN において、Cipher 17 または 3 アルゴリズム指定での認証のみをサポート。
- 「DHCPv4 の時刻設定を使用」有効時に、iLO が DHCPv4 サーバーから取得したタイムゾーンをローカル時間に反映させる機能をサポート。
- LDAP ディレクトリグループと SSO 設定のため用に追加の権限チェックを追加(セキュリティ強化)。
- iLO LDAP セッションの保持と、LDAP サーバーのタイムアウト設定が 45 秒以上の場合にネットワークタイムアウトを回避する機能をサポート。
- iLO Web インターフェイスおよび iLO RESTful API から View Log の有効化/無効化設定をサポート。
- 複数の画面やブラウザにまたがる iLO Web インターフェイスのレンダリング機能を強化。
- iLO 時刻設定におけるユーザーエクスペリエンスを改善。